



2026年6月5日

各位

会社名 INCLUSIVE Holdings 株式会社  
代表者名 代表取締役社長 木村 美樹  
(コード番号：7078 グロース市場)  
問合せ先 取締役 管理本部長 正田 聡  
(TEL 03-6427-2020)

### (訂正)「2026年3月期 決算補足資料」の一部訂正について

当社は、2026年5月14日に開示いたしました「2026年3月期 決算補足資料」について一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおり訂正いたします。

#### 記

#### 1. 訂正の理由

本日公表の「(訂正・数値データ訂正)「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」にてお知らせのとおり、「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の発表後、会計監査の過程において、売上高、売上原価、販売費及び一般管理費について、会計上の処理(税効果会計の処理及び科目の組替を含む)に一部誤りがあり、またそれに伴い、セグメント情報の集計においても一部誤りのあることが判明いたしました。

これらの訂正すべき事項があったため、開示済みの「2026年3月期 決算補足資料」を訂正するものであります。

#### 2. 訂正の内容

訂正箇所のある「2026年3月期 決算補足資料」の表紙及び9～16ページを添付し、訂正事項のあるページにはその旨を記載したうえで、訂正の箇所には下線を付して表示しております。

以上



# (訂正) 2026年3月期 決算補足資料

公表日：2026年5月14日

訂正日：2026年6月5日

INCLUSIVE Holdings株式会社  
(証券コード：7078)

Copyright © INCLUSIVE Holdings Inc. All Rights Reserved.

## 2026年3月期連結決算

下線部訂正あり



### 2026年3月期通期業績予想と実績の差異について

- メディア部門の営業活動の不調、長期的な収益性向上のための「選択と集中」に基づいた不採算案件からの撤退、来期以降の事業拡大のための一時的な先行投資を優先したことで売上高・利益ともに大きく通期業績予想を下回る結果となった。
- ブランドコンサルティングの一部大型案件の時期見直し、生成AIを活用が急速に高まるデジタルマーケティング案件の競合激化により売上高の当初計画を下回ることとなった。
- AIを活用した業務効率化を加速、組織再編による人件費の削減により、前年比の売上高の減少率に比べ、損失の拡大は最小限に留めることができた。
- 地域創生の実証実験（今期のみ発生）によりコスト増加。翌期以降コスト回収。

(単位:千円)

	2025/3期 通期 実績	2026/3期 通期 業績予想	2026/3期 実績	増減額	増減率
売上高	4,897,245	5,294,887	4,560,226	△734,661	△13.9%
調整後EBITDA (※)	△106,129	△114,796	△324,996	△210,200	-
営業利益	△366,589	△270,660	△417,945	△147,285	-
経常利益	△354,899	△277,918	△428,932	△151,014	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,073,835	△40,286	△174,070	△133,784	-

(※) 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費及びのれん償却費 + 株式報酬費用 + 寄付金

9

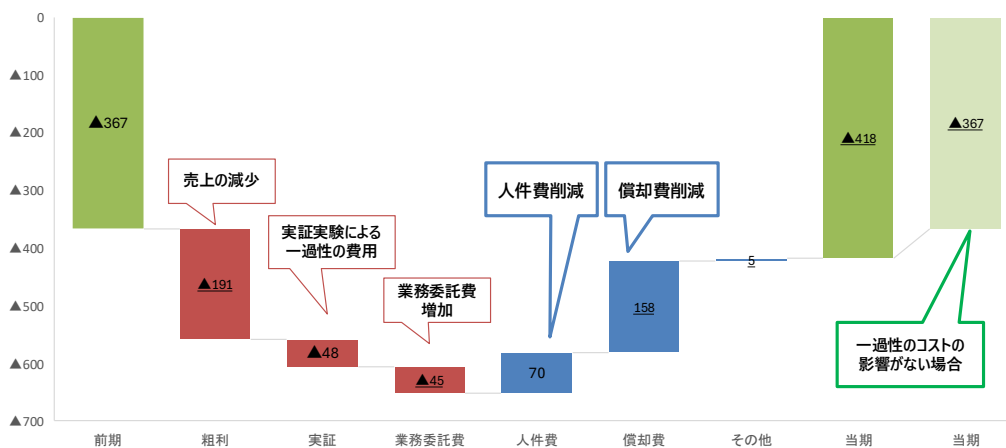
Copyright © INCLUSIVE Holdings Inc. All Rights Reserved.

2026年3月期通期業績ハイライト

売上高	前年同期比	■ 不採算案件の整理による戦略的縮小
<u>4,560</u> 百万円	△337百万円	
EBITDA	前年同期比	■ 減収の影響と一時的な費用増による低下
<u>△324</u> 百万円	△218百万円	
営業利益	前年同期比	■ 持株会社体制移行やグループ編成などの構造改革費用(一過性)
<u>△417</u> 百万円	△51百万円	■ 不採算事業の整理に伴う費用
親会社株主に帰属する当期純利益	前年同期比	■ 実証実験費用(一過性)
<u>△174</u> 百万円	<u>899</u> 百万円	■ 減損損失の一巡により改善

営業損益増減要因 233百万円のコスト削減

- 収益構造の抜本的改善により、大幅減収・先行投資の影響を最小限に抑制
- 償却費・人件費を中心にコスト削減を断行
- 将来の成長に向けた実証実験を実施（当期のみの一過性費用）



(単位:千円)

## セグメント別 損益計算書

		2025/3期 通期実績	2026/3期 通期実績	対前年同期	
				増減値	(%)
ブランドコンサルティング	売上高	2,802,828	2,209,315	△593,513	△21.2%
	EBITDA(※1)	△161,315	△115,092	46,223	-
	セグメント利益	△302,062	△184,257	117,805	-
食関連	売上高	2,089,638	2,211,212	121,574	5.8%
	EBITDA(※1)	66,437	100,626	34,189	51.5%
	セグメント利益	△53,528	87,440	140,968	-
宇宙関連	売上高	4,778	30,078	25,300	529.5%
	EBITDA(※1)	△10,997	△3,326	7,671	-
	セグメント利益	△10,997	△3,326	7,671	-
投資事業	売上高	-	109,620	109,620	-
	EBITDA(※1)	-	21,166	21,166	-
	セグメント利益	-	21,166	21,166	-
	セグメント利益の調整額(※2)	-	△338,968	-	-
合計	売上高	4,897,245	4,560,226	△337,019	△6.9%
	営業利益	△366,589	△417,945	△51,356	-

(※1) セグメント調整後EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費+株式報酬費用+寄付金

(※2) 2025年10月より持株会社体制へ移行したことから、セグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用等が含まれるセグメント利益の調整額が発生しております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

13

Copyright © INCLUSIVE Holdings Inc. All Rights Reserved.

## セグメント別 業績ハイライト

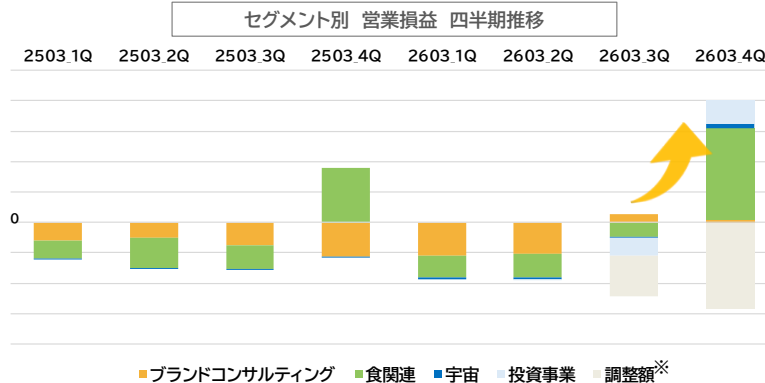
ブランド コンサルティング	<p>メディア事業の不採算案件からの撤退などの事業整理を優先し売上が大きく減少するも、稼ぐ力の指標EBITDAとセグメント利益が改善、<b>事業収益性の改善</b>。</p> <p>ブランドコンサルティングは、大阪・関西万博をはじめ大型案件獲得が堅調に推移。一部大型案件の時期見直しやデジタルマーケティングが競合激化が影響し、売上減少。</p>
食関連	<p>需要予測やデジタルマーケティングなどのAI利用による業務効率性が向上し、<b>EC事業が大幅に伸長</b>。</p> <p>百貨店含む店舗事業は<b>海外富裕層</b>などのターゲット顧客への訴求が奏功し、堅調に推移。管理面では工場から流通まで製造体制の抜本的改革により業務効率化が進んでいる。売上・セグメント利益ともに<b>前年比増</b>で着地。引き続き原価率改善など効率的なコスト管理によりセグメント成長を目指す。</p>
宇宙関連	<p>地方自治体向け農業行政の現地調査支援サービス「<b>圃場DX</b>」が<b>好調</b>。</p> <p>実証実験の有償導入案件移行に伴い、売上高前年比600%・セグメント損失縮小と<b>事業収益性が大幅改善</b>。</p> <p>「圃場DX」が内閣府の第7回宇宙開発利用大賞において、<b>農林水産大臣賞</b>を受賞。</p>
投資事業	<p>3Qにおいて一部の保有銘柄を減損したが、4Qに営業投資有価証券を売却したことによりセグメント利益は<b>黒字</b>で着地。</p> <p>ポートフォリオの入れ替えを進め、高成長銘柄にシフトする。</p>

14

Copyright © INCLUSIVE Holdings Inc. All Rights Reserved.

セグメント別 営業損益

- 第4四半期に収益が集中
- 食関連事業のEC事業が好調で、第3四半期から第4四半期にかけての季節商戦であるおせちの販売、AIによる業務効率化が寄与し、増益となった
- ブランドコンサルティング事業はメディア関連事業の見直しが課題であり、収益性向上のための撤退を優先。



(※) セグメント利益の調整額にはセグメント間取引消去及び各セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2027年3月期通期業績予想(連結)

- 徹底的なコスト削減と営業施策の改善・強化で業績回復を図る
- ブランドコンサルティング事業では、収益性の高い案件へ注力し、グループ連携による案件獲得の効率化を進める
- コスト削減と並行して経営リソースの最適化を進め、好調な食関連事業、宇宙関連事業の更なる成長を図る

(単位: 千円)

	2025/3期 通期 実績	2026/3期 通期 実績	2027/3期 通期 業績予想	対前期実績	
				増減値	%
売上高	4,897,245	4,560,220	4,827,662	267,436	+5.9%
調整後EBITDA (※)	△106,129	△324,996	△60,702	264,294	-
営業利益	△366,589	△417,945	△152,452	265,493	-
経常利益	△354,899	△428,932	△149,866	279,066	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,073,835	△174,070	△177,612	△3,542	-

(※) 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費及びのれん償却費 + 株式報酬費用 + 寄付金